

\*\*\*祝賀\*\*\*

## 大上安奈先生の「一般社団法人 日本生理人類学会 論文奨励賞」の受賞を祝して Celebrating for Assoc.Prof. Oue, "the Winner of Japanese Society of Physiological Anthropology"

食環境科学部 健康栄養学科 太田 昌子

2019年に、大上安奈先生が発表された原著論文「高齢者における膝伸展運動時の大腿動脈血流応答」が高齢者の健康寿命延伸への貢献が期待されると評価され、日本生理人類学会 2019年度 論文奨励賞を受賞された。受賞された論文は、J-STAGE上で全文が閲覧できるため、早速、拝読させていただいた。

巷では「足が冷える」とよく言う。この生理現象に加齢が関連していることは想像に難くない。しかし、先生は「歳だから」で終わらせず、更に思考を深化させ、「老化に伴う皮膚血流量の低下は、なぜ下肢から始まるのか」に着目される。その機序を検討するために、高齢者と若年成人に下肢温浴、いわゆる足湯を行うと、高齢者の導管動脈血流量の増加率は若年者よりも小さく、とりわけ、大腿動脈で顕著に年齢差があることを新規知見とした論文を2018年に発表されたことが出発点となっている。

さらに深化させた本論文では、高齢者が「自転車こぐ」ときの膝伸展運動を測定されており、筋量あたり的大腿動脈血流量は老化により抑制されないが、高齢者は減弱した血管コンダクタンス（高い血管抵抗）を大きな昇圧応答で補う機序を論述されている。

門外漢の私にとっては、上述の解釈にも膨大な時間を要したにもかかわらず、これ以上の理解は諦めざるを得ないが、研究室に無造作におかれている楯を見るたびに、この上ない快挙であることを実感する。

論文内容を詳述することはできないが、受賞論文から思うことは二つある。一つは、科学技術振興機構が発表した2019年「研究開発の俯瞰報告書-俯瞰と潮流-」と合致していることである。報告書によると、ライフサイエンス・臨床医学分野では、大量の生命情報から法則を発見するというデータ駆動型の新しいアプロ

ーチにより生命現象の理解が格段に進展したことが述べられている。その基盤の上に、日本の政策として、個別化・層別化医療の実現や、分子・細胞・組織・器官等における生命システムの解明が課題となっている。

先生の報文は上述の個別化・層別化医療の実現の礎であり、緻密な理論を報文で蓄積することが我々大学教員の唯一無二の手法であることを再認識した。

今、国立研究開発法人が各分野の俯瞰と潮流に着眼している。これらの考えの原点は学祖井上円了の「学はその深きを以て貴しとせず 利民の用有るを以て貴しとす。識はその博きを以て貴しとせず 濟世の用有るを以て貴しとす。」を淵源とする建学の精神に通ずるものであるように思う。

大上先生が東洋大学に着任されてから、10年が経とうとしている。教育と研究を両立させ、博士後期課程の学生を筆頭に邁進されている姿を横目にみて、先生の益々のご活躍を祈念したい。

受賞おめでとうございます。

引用文献：

1 研究開発の俯瞰報告書 統合版（2019年）～俯瞰と潮流～

CRDS-FY2019-FR-01 国立研究開発法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター

2.東洋大学における井上円了研究の現状 竹村牧男

下田歌子研究所年報 女性と文化,3,18-26 (2017-03-10)

